

民意を反映する選挙制度実現
比例定数削減反対！ **運動情報**

憲法会議 発行

Eメール mail@kenpoukaigi.gr.jp
ホームページ http://www.kenpoukaigi.gr.jp

【憲法しんぶん速報版】

2012年9月12日

第358号 Tel 03-3261-9007
本号2号 Fax 03-3261-5453

民主党 比例定数削減案廃案に！民意反映 の選挙制度実現めざす運動に貴重な1歩 第180回通常国会閉会に当たって11団体が「声明」

11団体は12日、9月8日に閉会した通常国会最終盤で、民主党が提案し、衆院で与党だけで強行採決された比例定数削減法案が参院で廃案になったことを受け、「声明」を発表しました。

【下記に「声明」全文を掲載】

声 明

比例定数削減法案は世論と運動で廃案—第180回通常国会閉会に当たって

2012年9月12日

憲法改悪阻止各界連絡会議／自由法曹団／新日本婦人の会／全国商工団体連合会／
全国労働組合総連合／全日本学生自治会総連合／全日本民主医療機関連合会／
東京地方労働組合評議会／日本民主青年同盟／農民運動全国連合会／婦人民主クラブ
連絡先：憲法会議〒101-0051 千代田区神田神保町2-10 神保町MS202 電話03-3261-9007 fax03-3261-5453

1. 第180回通常国会は9月8日閉会した。この国会では、消費税増税を国民に押し付けるため、「身を切る改革」と称して民主党が提出した比例定数削減法案が、衆議院では与党だけで強行通過させられたが、参議院で廃案になった。これは議会制民主主義破壊の策動を打ち破る重要な成果であり、民意が届く選挙制度実現めざす運動にとって重要な1歩である。

また民主・自民・公明3党談合によって、消費税増税法が強行成立させられた。そして、参議院で野田首相に対する問責決議が可決された。これは増税反対の圧倒的多数の国民の声を反映したものである。消費税増税を実施させないために、当面する総選挙・参院選で「民自公増税連合」に「ノー」の審判を突きつけ、増税実施阻止の国民的運動をさらに大きくしようではないか。

2. 私たちは一昨年来、「小選挙区制を廃止し、比例定数削減反対・民意が届く選挙制度の実現」を求め、街頭宣伝や数十万人分にのぼる署名、国会内や屋内での大小の集会、「身を切る」ねらいがずばっとわかる「課税府のノダ」リーフ作成と60万部の活用、対話などの活動、国会議員への働きかけを国会でも地元でも繰り返し行なうなど、運動をひろげてきた。

3. 昨年からは国会内で、「1票の格差是正」を含む選挙制度の改革をめぐる各党協議が重

ねられてきた。民意が反映される選挙制度を願う国民世論を背景にして、各党協議では、現行小選挙区制は民意を歪めており、抜本的な改革が必要であり、民主党の比例定数 80 削減案には反対である、との認識で民主党を除く各党が一致していた。ところが民主党は、各党協議を一方的に打ち切り、次の総選挙での小選挙区「0 増 5 減」、比例定数 35 削減と一部連用制の導入、次々回総選挙でさらに定数 40 削減するという「定数 80 削減」に固執した法案を提出した。そのうえ、この法案を一方的に特別委員会に付託し、民主党だけで委員会審議・採決を行い、衆院本会議で与党だけで強行可決するという「憲政史上かつてない暴挙」を行なった。この民主主義破壊に対して、多くの国民が強い抗議を示し、11 野党が一体となって糾弾する行動をとったことは極めて大きな出来事であった。

4. 私たちは、民主党案が息を吹き返すことを許さず、自民党の「0 増 5 減」案や維新の会の「半減」案など、民意を歪め、国民の意思を国政に反映することを阻む「改革案」に反対する。私たちは、小選挙区制を廃止し、民意が政治に届く選挙制度への抜本改革の実現を強く求め、運動を新たな段階にひきあげたかう。

また参議院の選挙制度についても、憲法の要請である「1 票の価値の平等」の実現には制度そのものの抜本改革が不可欠であり、総定数を削減せず、多様な民意を反映する改革を求めるものである。「継続審議」となった民主・自民党提出の「4 増 4 減」案は 4.746 倍もの格差のままであり、憲法上の要請に応えるものではない。

5. 国民は、消費税増税反対、社会保障改悪反対、原発再稼働反対・原発なくせ、オスプレイの配備反対・基地なくせ、TPP 参加反対、働くルール確立など、自らの声や要求が国会や政府に届かない、と苛立ちを強めており、それは限界に達している。こうした中でこれまでにない共同の運動が東京でも、全国各地でも飛躍的に広がっている。

私たち 11 団体は、諸課題の運動を大きく推進する先頭にたつとともに、その中で選挙制度の抜本的な改革を実現し、比例定数削減に反対する運動に引き続きまい進する決意である。

以上